

提出したことがきっかけで、設計に当たっては愛好家も一緒になって協議を重ね、途中、スケートボードが東京五輪の正式種目に採用されたこともあって、国際大会も可能なレイアウトに変更されたとのことです。

面積は4,890平方メートルと全国でも最大級の規模で、平成31年4月に供用が開始されると全国各地からスケーターが集まる施設となっています。本市からも、令和2年7月末時点で、延べ1,558人が利用しています。

【委員間協議では】

コロナ禍における利用者の急増など、公園を取り巻く市民ニーズも多様化しています。他市においては、パークコーディネーターという専門スタッフを活用することで、来園者数が数倍に増えたというような事例があり、また、公園で収益を上げるためには、民間のアイデアによって魅力のある公園を造ることが必要との意見もありました。

視察した松阪市総合運動公園は、苦情の原因だったスケートボードを集客の材料に変え、経済効果にもつながった好事例で、松阪市によれば、公園利用者が周辺の観光施設に寄ったり、観光の帰りに公園を利用するといった新たな人の流れが生まれているとのことです。



松阪市総合運動公園の利用者数

令和元年度	2万5,123人
令和2年度	3万人超(6月時点)
鈴鹿市からの利用者数	延べ1,558人
(平成31年4月～令和2年7月末)	



【調査を踏まえた上で、市行政に対し次の提言を行いました】

- ①公園の利用者を増加させるため、公園施設と周辺の観光資源等を融合させた利用方法を検討すること。また、他市で採用されているパークコーディネーターやパークPFIなどを含めたさまざまな手法を活用し、多用途に利用可能な公園となるよう努めること。
- ②市内公園の利用率が低い施設について、施設の有効活用を行うため、今回視察を行ったスケートパークなどのように、新たな機能を持った公園施設へ整備できないか検討すること。

そのほかの調査事項については、次の提言を行いました

観光産業発展への課題研究について

- ①伝統産業について、インターネット等を活用した新たな商品の販売方法やPR方法の工夫を検討するとともに、本市と観光施設従事者が協力して観光資源や伝統工芸士を後世に残していくよう努めること。

道路維持管理における速やかな情報収集と対応について

- ①SNS等のツールを活用した新たな通報窓口を作成し、より早く正確に道路の情報を収集する体制づくりを行うこと。また、郵便局、収集運搬業者等に協力を求め、幅広く情報を収集するとともに、通報のあった道路の損傷に対して、迅速に対応するよう努めること。

市営住宅の入居について

- ①住宅困窮者の住居を安定的に確保するため、市営住宅の在り方の見直しや通年募集の採用について検討すること。また、市営住宅に入居しやすくするために、保証人等の入居条件の緩和を検討すること。

調査報告書は議会ホームページに掲載しています。
ぜひご覧ください

